

教草女房形氣

山東京山著

卷

四



~ 13
3580
4



13
3580
4

森中生著

洋算學をぬ

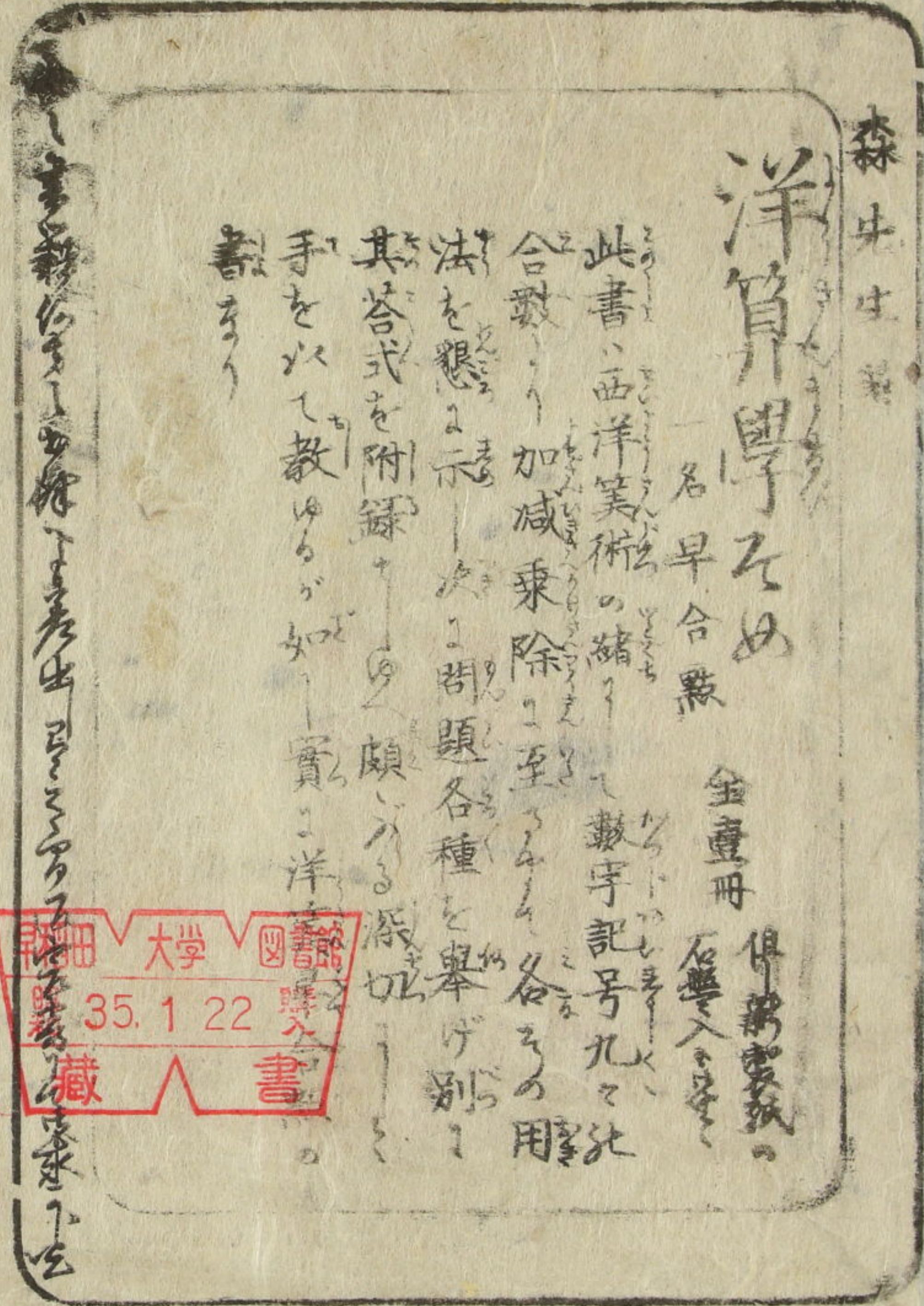
一名早合點

全壹冊

伊藤雲哉の
石筆入り

此書、西洋算術の緒、
合數、加減乗除、
法を懇示、
其答式を附録、
手を以て教ゆるが如し、
實に洋算學の
書を

大学圖書部
35.122
藏書



女房形氣四編上冊

古今の通解
日本ハ君子國
古事記をよみえさる神代の

古事記をよみえさる神代の
やのちも神代をよみえさる
らぬにのちも、妻の国をよみ
りみ、小免得妬あり漢の高祖
の本妻、白后が腹、小男子一人
あり、妾戚夫人も男子一人あり、高祖戚夫人をよみ
たるとあり、とあり、死に立んとあり、小事をよみ



弘化四年丁未夏五月稿本
全年晚秋上梓發販

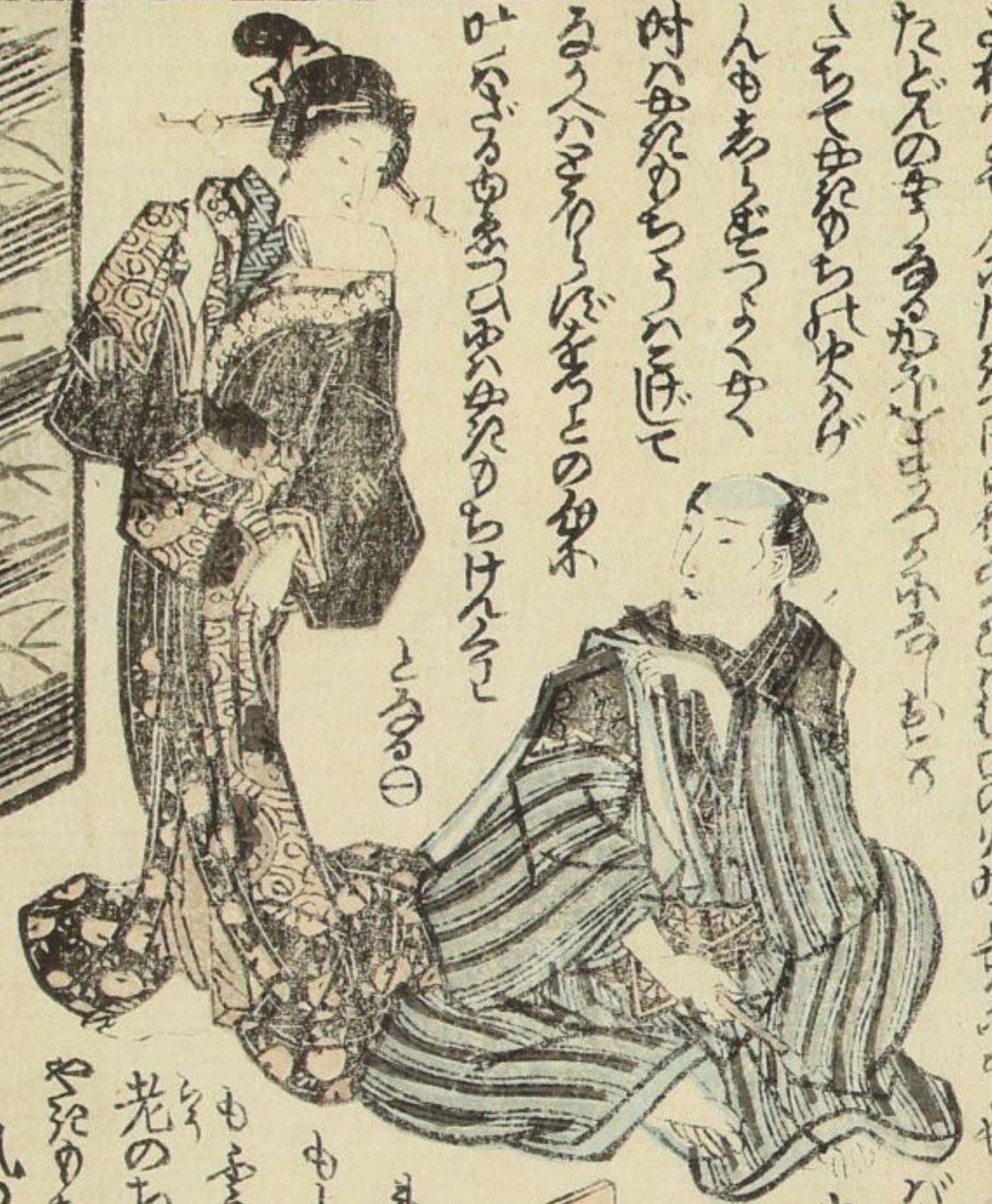
高田

高相元は本妻の居后の女子をたぐ天子を
 是と恵帝と久耐小呂后夫の正なる麻夫人を
 へ手足の眼と舌根耳と舌舌の舌舌で瘡と
 多 厨の中へ入れおきてあはれ死も
 中をを人の言いと名づけたる
 へ酷妬の本家と久下との
 店より後漢の表紹が本
 妻を病死と云ふは
 妻五人と此此もあはれ地下でさ
 もあふめんと五人かろが友とあはれり
 かねたりまゝありり此二日の本あり古今
 ひるあの大空もちこれらるる国におはれ
 毛えびまの国もあまされ謝降九雜組
 おもあとの例をもあはれ婦人不好百拙

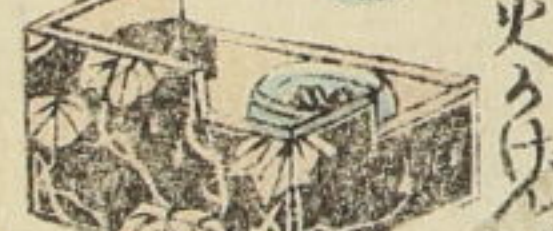


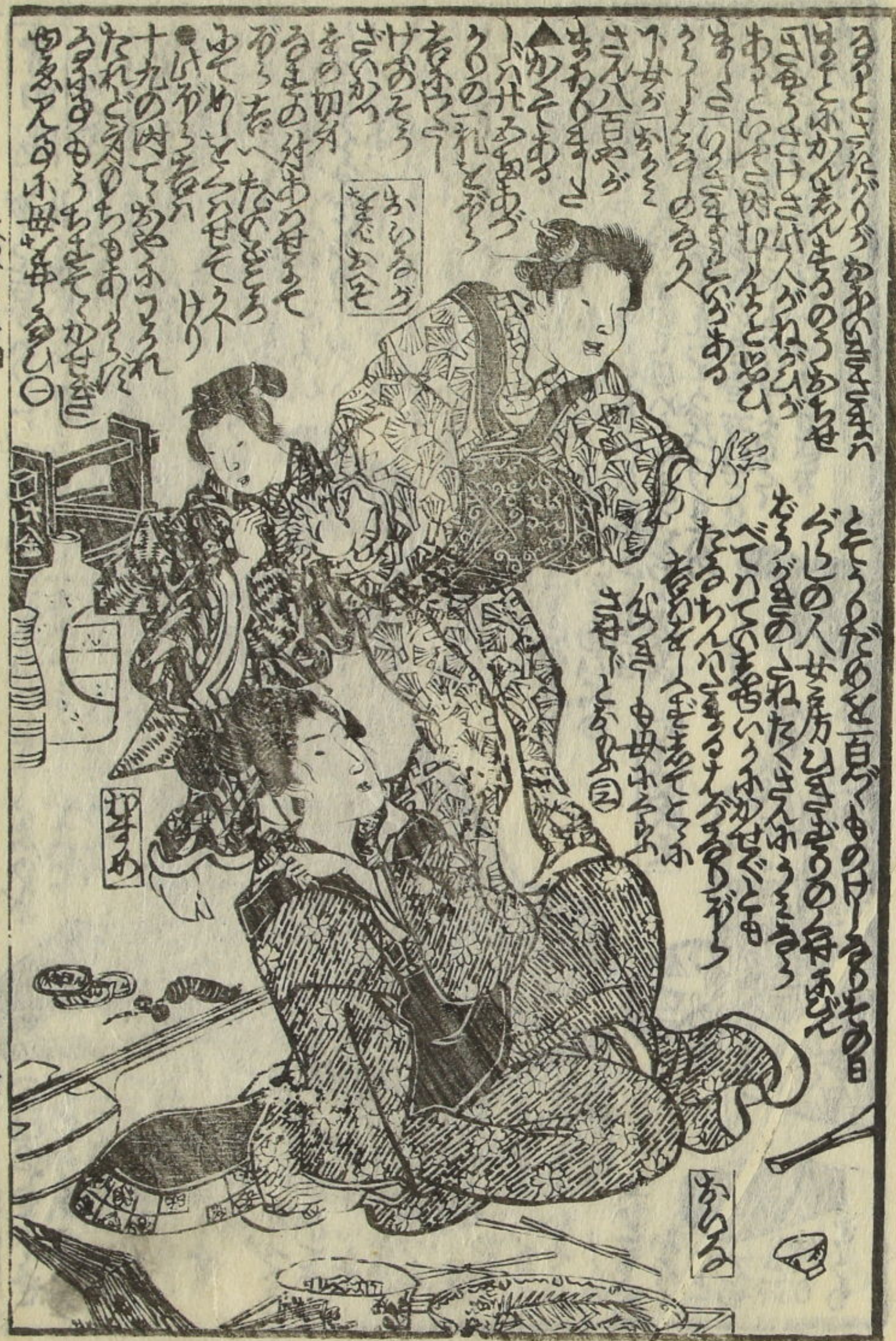
阿仏尼が乳母と云ふは

掩ふ不足りといれどもおとすもおとすとのおとす
 されとて人おはれりけれあはれむひの火はあま
 たとのまゝあはれりませらるるあま
 こちてあまあはれりませ
 人もあまあはれりませ
 時におはれりませ
 るるあまあはれりませ
 吐けるあまあはれりませ
 と云ふは



あまあはれりませ
 もあまあはれりませ
 光のあまあはれりませ
 おはれりませ
 と云ふは



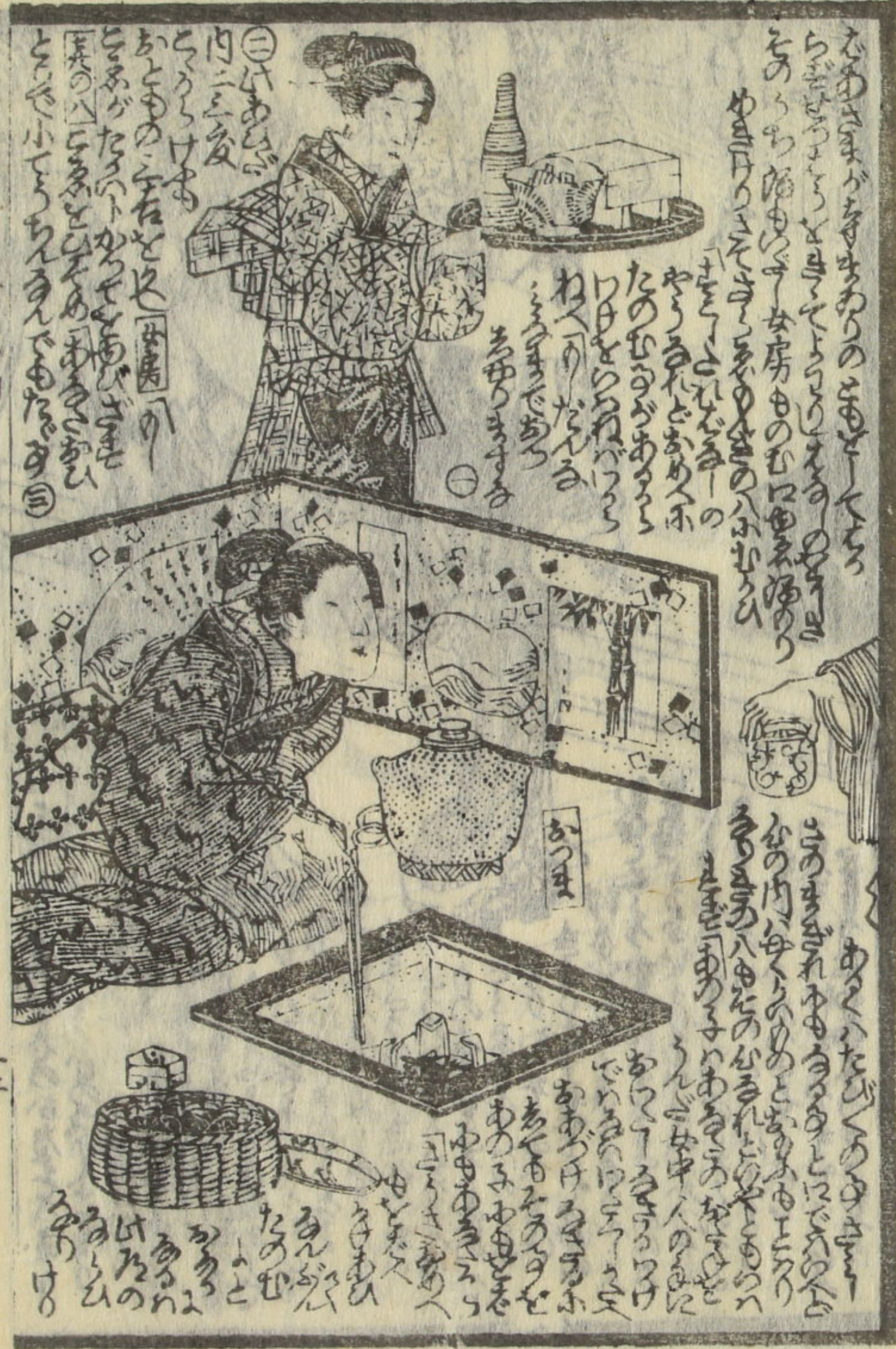




又かつていやはや
 あの子小とあやう
 づいづいおちみ
 とよこつちをわけて
 るたのいせの母
 大とあつたれ
 うちかつて
 うちあれり
 だまらあ
 可もる
 いたまらあ
 るくねか
 かこけくあせ
 中もりやせ
 びんるあけ
 やんざあせ
 あまめいあせ
 あちんあせ
 さるあせ
 うちあせ
 あけあせ
 のかあせ
 又いこのかあせ



又かつていやはや
 あの子小とあやう
 づいづいおちみ
 とよこつちをわけて
 るたのいせの母
 大とあつたれ
 うちかつて
 うちあれり
 だまらあ
 可もる
 いたまらあ
 るくねか
 かこけくあせ
 中もりやせ
 びんるあけ
 やんざあせ
 あまめいあせ
 あちんあせ
 さるあせ
 うちあせ
 あけあせ
 のかあせ
 又いこのかあせ





廿二日 八月十八日
 天白星二...
 八月十八日...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...



第十一段
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...





大正四年

一七





續白王朝戰畧篇

照陽島見北日景

全五册

此書正編ノ西ニ行ル、日月ニ感ヲリ而木ヲ近世ノ戰畧ヲ記スニ
 及テ故ノ先生新ニ續編ノ著アリ、乃チ其載スル所ハ文化年間魯西
 亞ノ入寇ニ起リ、尔來中國又ハ西東ノ戦ト近年佐賀台灣諸役、昨
 平朝鮮江華島ノ捷ニ至マデ大小ノ諸戰ヲ記シテ名將勇士ノ功勳
 偉々洩ス所ナケレハ、兵家必讀ノ書タルハ言フマタ今日本國
 興、所以入者、マテ戰ニ出レバ、此書人々之ヲ関セリ、ハ、心ニ名
 子、幸ニ領リニ、又、テ其奇書ナルヲ知リ、ト

大阪書肆

前川久榮堂發兌

前川久榮堂發兌

重刊水鏡
經史類
詩源類

重刊水鏡